

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 消費財コア、資本財価格の下落でインフレ懸念後退 (05年8月生産者物価)

発表日: 05年9月13日(火)

~ 一方で、先行きのインフレ圧力が強まる兆し ~

(No. UI - 101)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@d1ri.dai-ichi-life.co.jp)

生産者物価 (Producer Price Indexes)

	最終財		コア		エネルギー		中間財		原材料		<参考> 輸入物価		WTI
	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	
04/08	+0.1	(+3.3)	+0.3	(+1.5)	+0.3	+1.0	+1.0	+1.0	0.3	+2.5	+0.3	44.9	
04/09	+0.3	(+3.3)	+0.3	(+1.7)	0.2	+0.3	+0.8	+0.8	4.5	1.3	+0.1	45.8	
04/10	+1.5	(+4.5)	+0.3	(+1.8)	+5.7	+1.0	+0.5	+0.5	+4.3	+4.3	0.1	53.2	
04/11	+0.7	(+5.0)	+0.3	(+2.0)	+2.7	+0.8	+0.3	+0.3	+7.6	+3.1	+0.9	48.5	
04/12	0.3	(+4.2)	+0.2	(+2.3)	2.4	+0.1	+0.4	+0.4	3.1	1.4	+0.4	43.3	
05/01	+0.1	(+4.1)	+0.7	(+2.6)	1.0	+0.3	+0.7	+0.7	2.0	2.5	+0.3	46.9	
05/02	+0.4	(+4.7)	0.1	(+2.6)	+1.8	+0.6	+0.5	+0.5	1.0	2.9	+0.1	48.1	
05/03	+0.8	(+5.0)	+0.2	(+2.6)	+3.3	+1.0	+0.3	+0.3	+4.7	0.3	+0.3	54.6	
05/04	+0.5	(+4.8)	+0.3	(+2.6)	+1.8	+0.7	+0.1	+0.1	+2.6	+2.1	+0.4	53.0	
05/05	0.6	(+3.5)	+0.1	(+2.6)	3.5	0.6	0.2	0.2	2.5	4.1	0.2	50.0	
05/06	+0.0	(+3.6)	0.1	(+2.2)	+2.0	+0.1	0.2	0.2	3.3	4.3	0.2	56.4	
05/07	+1.0	(+4.6)	+0.4	(+2.8)	+4.4	+1.0	0.1	0.1	+6.7	+3.1	0.1	58.9	
05/08	+0.6	(+5.1)	+0.0	(+2.4)	+3.7	+0.7	0.1	0.1	+2.3	+4.6	0.1	64.4	

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

コアが前月比+0.0%と市場予想を下回った

05年8月の生産者物価(最終財)は、エネルギー価格やコア物価の鈍化によって前月比+0.6%と市場予想の同+0.7%を下回った。一方、変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、資本財、消費財が自動車価格の鈍化・下落によって押し下げられたため同+0.0%と市場予想の同+0.1%を下回り、生産者段階の物価上昇が抑えられていることが確認された。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも、中間財(コア)が1.5%(7月同+0.8%)とマイナス幅が拡大しており遅れて影響を受ける最終財(コア)が同+1.3%(同+1.6%)と3ヵ月連続で低い伸びにとどまっている。生産者段階での物価上昇圧力は残存しているものの、足下では強まっていないと判断される。

資本財、消費財コアは共に前月から低下

最終財のカテゴリー別の動向をみると、食品関連では野菜や卵の下落によって、食品価格は前月比0.3%(7月同0.3%)とマイナスが続いた。一方、エネルギーは前月比+3.7%(7月同+4.4%)とプラス幅が縮小した。ヒーティングオイルが同0.3%(同+5.1%)とマイナスに転じた。さらに、天然ガスが同+2.5%(同+3.7%)、ガソリンが同+9.5%(同+10.9%)と鈍化した。

消費財(エネルギー・食料品を除く)では、宝石・プラチナ・金が前月比+0.5%、家庭用家具が同+0.4%と加速した。一方、新車の値下げが実施されたため乗用車が前月比1.3%(7月同+1.5%)、タイヤ・チューブが0.1%(同+1.7%)、靴が0.5%(同+0.1%)、男性物アパレルが0.4%(同+0.0%)、本が0.3%(同+0.1%)、定期発行誌が同0.3%(+0.4%)、フローカーペットが0.1%(同+0.6%)とマイナスに転じた。加えて、処方薬が同+0.3%と鈍化したことから、消費財(エネルギー・食料品を除

く)は同 0.1% (同+0.4%)とマイナスに転じた。

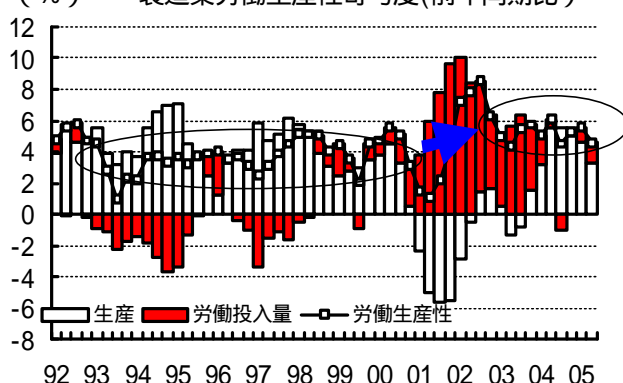
他方、資本財では、品質向上や値引きが続くコンピューターが前月比 0.4% (7月同 2.1%)と下落幅が縮小し、大型トレーラーが同+1.4% (同+0.6%)と上昇ペースが加速した。一方、通信機器が同 0.3% (同+0.1%)とマイナスに転じ、建設機械・機器が同+0.3% (同+0.5%)、軽トラックが同+0.5% (同+1.4%)、民間航空機が同+0.0% (同+1.0%)、大型トラックが同+0.2% (同+0.9%)とプラス幅が縮小した。さらに、繊維機械が同 0.4% (同 0.1%)とマイナス幅が拡大したことから、資本財全体でも同 0.1% (同+0.5%)と下落した。

生産者物価(最終財)コアは前年比で鈍化する見込み

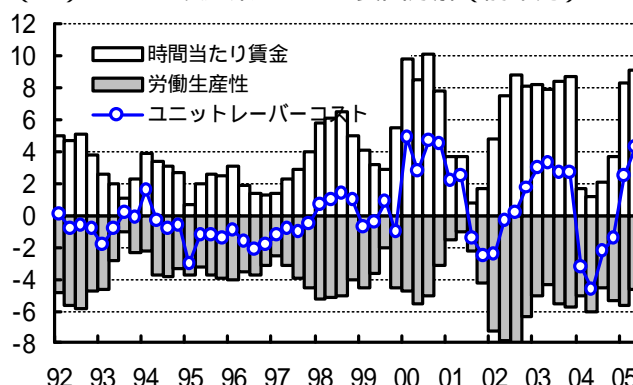
今後に関しては、川上でのインフレ圧力を示す原材料(コア)が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で8月に 11.0% (7月 17.4%)と下落幅が縮小したこと、中間財(コア)に2ヵ月程度先行する仕入価格指数(I S M製造業景気指数)が再び上昇していることから、インフレ圧力は再び強まっていると判断される。

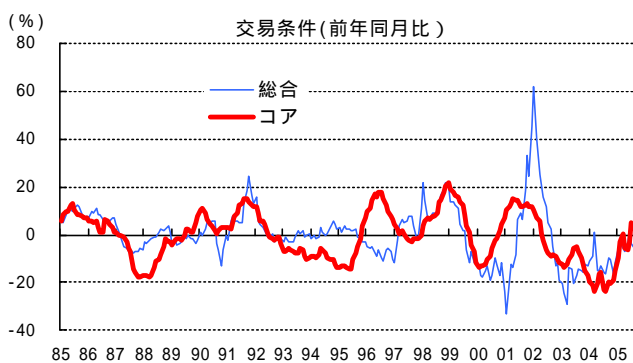
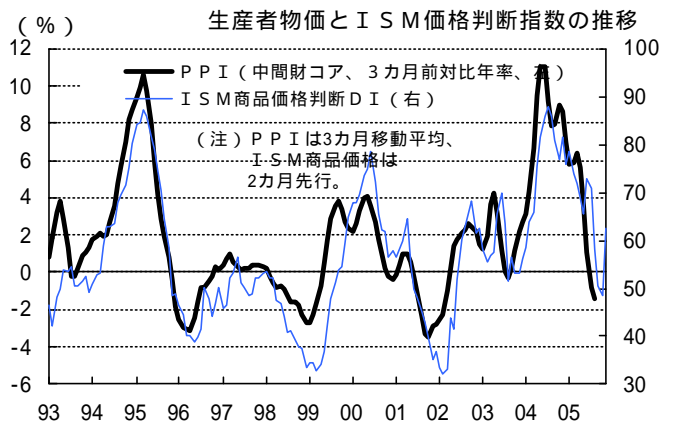
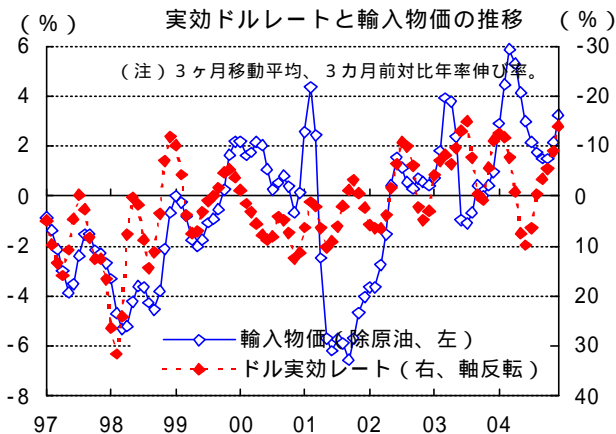
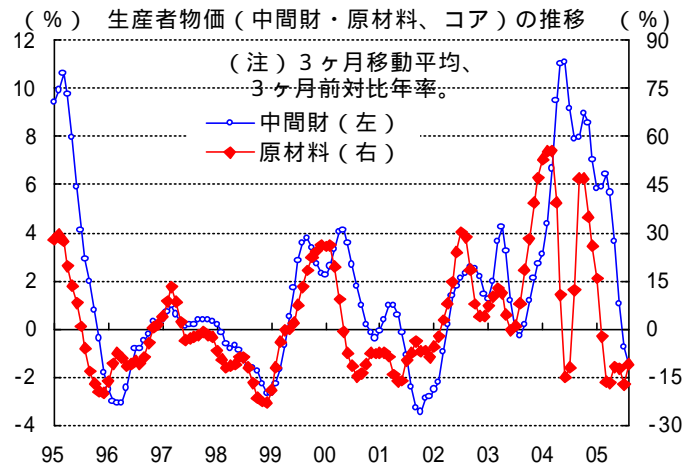
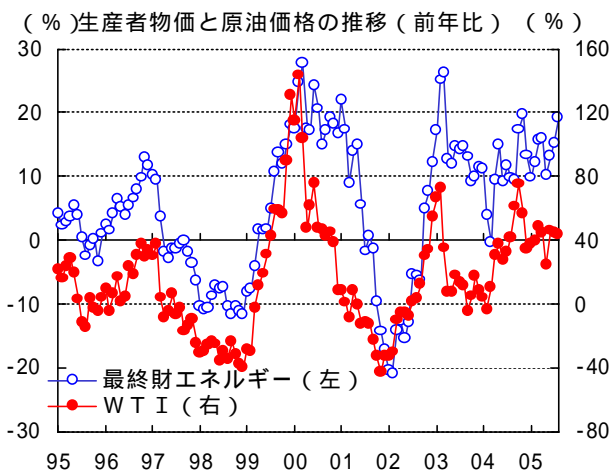
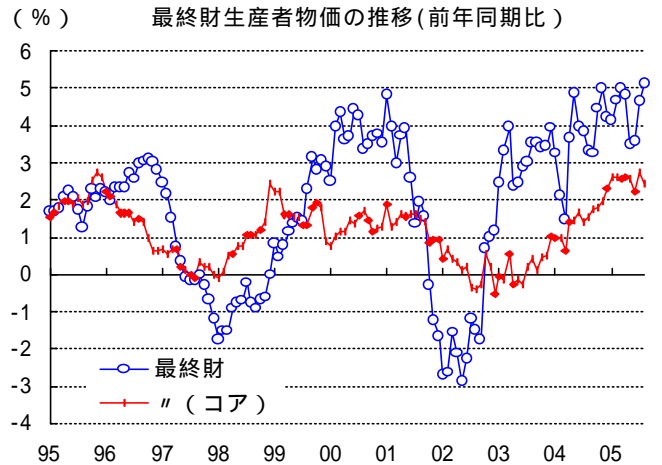
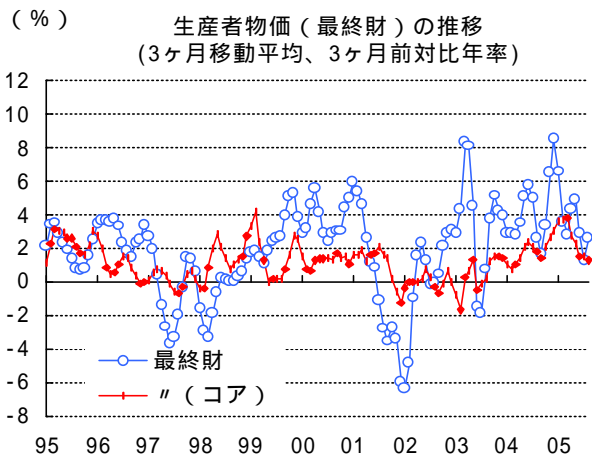
今後、世界的な景気拡大持続に伴う供給不足懸念を背景にエネルギー価格の高止まり、或いは上昇が続く、商品価格も高止まりする可能性がある。このため、原材料価格(コア)は再び上昇に転じると見込まれる。しかし、製造業では売上の増加による数量効果、情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価(最終財)コアは前期比で緩やかな上昇にとどまろう。さらに、前年比では物価押し上げ圧力が年末にかけて限界的には縮小することから、生産者物価(最終財)コアの上昇ペースは前年比で鈍化する公算が大きい。

(%) 製造業労働生産性寄与度(前年同期比)



(%) 製造業U L Cの要因分解(前年比)





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命いしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。